

刈谷市の今後 10 年の重点的な課題をテーマ別に掘り下げて検討しました

～ 第 2 回 市民まちづくり会議 開催レポート ～

今後 10 年間のまちづくりの方針を定める総合計画づくりの一環で、令和元年 6 月 22 日（土）にスタートした「市民まちづくり会議」。第 2 回目を、令和元年 7 月 13 日（土）に中央生涯学習センター（総合文化センター内）4 階 401・402 研修室で開催しました。今回は、第 1 回で話し合った刈谷市の 10 年後の「期待」「不安」を踏まえ、テーマ別に今後の重点的な課題についてじっくり検討しました。以下、当日の様子をご紹介します。

■ 関心のあるテーマに分かれて 4 つのグループづくり

第 2 回から第 4 回は、各テーマに分かれ、今後の課題や施策・事業のアイデアをじっくり掘り下げて検討していきます。そのため、参加者が最も関心のあるテーマに分かれて議論していただくために、事前にお聞きした関心度を踏まえてグループ分けを行いました。

グループは、大きく「都市基盤」、「教育文化」、「産業環境・安全」、「福祉・協働」の 4 つのテーマで構成。性別や年齢、職業などが異なる多様な参加者が 8～9 名程集まり、改めて自己紹介をしてから、本日の議論をスタートしました。



■ 第 1 回の振り返り、市職員における検討結果の共有

今後の重点課題を検討するにあたり、まず前回の会議の振り返りからスタートしました。

まず、第 1 回で議論した「10 年後の暮らしの“期待”と“不安”」に関する意見について、事務局でテーマ・分野別に再整理した資料をもとに確認しました。加えて、昨年度 2 月に実施した「未来ワークショップ」で頂いた意見についても、補足説明を行いました。

さらに、昨年度に刈谷市役所の職員プロジェクトチームが検討を行った分野別の議論の総括結果（主な実績・今後の展開方向）についても、該当するテーマについて「刈谷まちづくり白書（令和元年 5 月）」を使って説明を行いました。

■ テーマごとの今後 10 年の重点課題をじっくり意見交換

各グループが担当するテーマについて、刈谷市の現況やこれから起こりうる状況をプラス面・マイナス面の両面から検討するとともに、それらを踏まえた今後 10 年の課題について意見交換を行いました。

第 1 回で出された「10 年後の暮らしの不安」を改善・解決するために必要な対応が課題として数多く出され、中には具体的な施策・事業のアイデアまで盛り込んだ意見も見られました。さらに「10 年後の暮らしの期待」を実現するために、現状の強みや特色を活かし、さらに魅力を高めるための課題も提案されました。



【主な意見（抜粋）】

都市基盤	将来的な人口減少への対応
	安心安全で強い都市づくり
	駅や周辺の利便性の向上、円滑な交通の確保
	AI、IoT、監視システム、カーシェアリングなどの最新技術の活用
教育文化	自転車道の整備、自転車ルールの教育
	特別支援学校の支援体制の充実、普通学級との交流
	地域での文化・スポーツ活動を部活動の代替に
	各個人の技術・経験を生かす場所や機会の充実
	子どものキャリア教育の充実
	新たなスポーツビジネスの拡大、スポーツホスピタリティ
産業環境・安全	歴史博物館の教育への活用や親しんでもらえる展示の実施
	農業の未来技術の導入による負担軽減
	シニアをはじめ市民が農業をできる機会づくり
	技術・技能の継承
	災害発生時を見据えた自給自足の意識啓発
福祉・協働	渋滞箇所、危険個所の改善
	共働き世帯支援・子育て支援、子育てしやすい環境づくり
	無理のない働き手、介護現場でのロボット等の活用
	障害のある人への理解促進
	若者が活躍できるまち、子育て世代の声を市政に
	外国人児童生徒への支援、多文化共生への理解
世代を超えて関われるコミュニティづくり	

■ 横断的な視点から各グループの意見を確認し、全体で成果を共有しました

約 80 分間グループでじっくり話し合った後は、グループを離れて他グループの成果を見学し、意見交換やアイデア出しを行う時間を設けました。参加者の皆さんは、幅広い分野に関心を持っている方が多く、自身のテーマとの関連も意識しながら、積極的に他グループへのご質問や追加提案などを頂きました。

その後、グループに戻り、振り返りを行うとともに、進行役のスタッフから本日の話し合いのまとめを発表しました。

最後に、次回にむけて、本日議論した課題の解決策のアイデアや先進事例などを事前に調べてきてもらうことを宿題としてお願いし、会議を終了しました。

